資料2

パブリックコメントに寄せられた意見の概要とそれに対する対応（考え方）

1．素案を修正するもの

	意見の概要	対応（考え方）
1	工事看板等を見かけるが、朝の交通混雑等に影響が出ないようにして欲しい。	工事に際しては、朝夕の交通量が多い時間帯は施工は避けるようにしております。また、昼間でも交通量が多い場合は、夜間作業で対応しているところです。 工事中は迷惑をかけますが、できるかぎり通行に支障のないよう心がけています。 なお、今後は、通行時などの参考としていただけるように事業計画についておおよその工事箇所や実施時期などの情報について、お知らせすることも含めて検討します。 【意見を踏まえた変更箇所】 実施方策5－（1）－②ICT（情報通信技術）活用の検討
	修正前	修正後
	パソコンや携帯電話等から上下水道の使用開始・中止の手続きが可能となるサービスの実施を検討するなど、インターネットを利用することにより、お客様の利便性向上を目指します。	パソコンや携帯電話等から上下水道の事業情報の閲覧や使用開始・中止の手続きが可能となるサービスの実施を検討するなど、インターネットを利用することにより、お客様の利便性向上を目指します。
2	今後水道料金はどのくらいのペースで上がっていくのか。	水道料金は、日常生活に密着しているため、できるだけ長期にわたり安定的に維持されることが望まれます。 しかし一方では、期間的負担の公平性、原価把握の妥当性等を考慮すると5年程度が適当との考え方もあります。 長期間料金を据え置きにすると改定率が大きくなるため、今後は、経営審議会の答申にもありますとおり、5年をめどに料金改定の必要性について検討します。 【ご意見を踏まえた修正箇所】 実施方策4－（2）－②上下水道料金改定の検討
	修正前	修正後
	財政計画は、事業の重要度や緊急度を精査した上で策定していきますが、老朽化施設の更新や耐震化等を実施するには多大な費用が必要となります。今後、必要となる事業の財源を確保するため、料金水準の定期的な見直しが必要になります。	財政計画は、事業の重要度や緊急度を精査した上で策定していきますが、老朽化施設の更新や耐震化等を実施するには多大な費用が必要となります。また、人口減少が進むと予測されている中で、料金の据え置き期間が長期にわたると改定率が大きくなります。今後、必要となる事業の財源を確保するため、社会情勢や経済情勢、健全な事業経営の観点を踏まえおおむね5年をめどに料金水準を定期的に見直し、料金改定の必要性を検討していく必要があります。

2. 素案を修正しないもの

	意見の概要	考え方
3	下水道の未接続が多いのではないか。	本市の下水道の接続率は、平成26年度末時点で92.3%となっています。 また、宮崎県全体の接続率は88.6%、九州の県庁所在地の接続率は平均で91.7%となっています。 本市では、下水道接続向上のため、水洗化促進員による個別訪問や、下水道供用開始後3年目を迎える区域を対象に個別相談会を実施し、下水道接続の促進に努めています。
4	上下水道局は儲ける必要はないので、下水道使用料を現在の半額以下にして欲しい。	下水道事業は公営企業であり、独立採算及び受益者負担の原則によって運営されています。 下水道使用料は、皆様が安心して下水道を使用するために必要なもので、汚水処理に係る経費を基に使用料水準が決められています。 なお、各年度の決算が結果として黒字となることもありますが、各年度生じた利益（黒字額）については、施設の更新や借金返済等の財源として使用しております。
5	クレジットカードで支払えるようになるとよい。	クレジットカードによる支払いの導入についてはこれまでも検討を行っており、クレジット会社に支払う処理手数料が高額で経費増になることから導入には至っておりません。 費用対効果を検証しながら、今後も引き続きお客様ニーズにあった料金請求システムを検討します。
6	老朽化対策や地震対策に係る費用については、料金に上乗せすべきではないのではないか。	上下水道事業は、独立採算であり、給水や汚水処理に係る経費は上下水道料金で賄うのが原則となっております。そのため、老朽化対策や地震対策についても、上下水道料金で賄う必要があります。 今回の水道料金改定は、安全・安心な水道水を安定して供給するためのものであります。
7	今回の値上げに関しては、強く疑問を感じる。みなさんにアンケートを行った方が良いのではないか。	今回の「みやざき水ビジョン2010」の改訂にあたり、お客様アンケートを実施しています。 そのなかで、地震対策や老朽化対策への取り組みについて質問し、過半数の方から、多少負担が増えても進めて行くべきとの回答をいただいたところです。 なお、「第7章　参考資料」にお客様アンケートの結果を掲載しています。

	意見の概要	考え方
8	水道料金20％値上げは負担が大きい、さらに節水が進み逆効果ではないか。	今回の料金改定の最も大きな要因は、今後増加する費用への対応となります。 水道施設の多くは、高度経済成長期につくられたものが多いため老朽化が進んでおり、現在これらの施設の更新を進めています。さらには、南海トラフ巨大地震への備えとして耐震化も進めています。 また、節水につきましては、限りある資源を有効に活用するという観点や、今後施設を更新していく際に現在のものよりも規模を小さくし、費用を抑えることに結びつくことから、今後も推進していきます。
9	老朽化や地震対策の必要性は理解するが、全体として「支出」に対する「収入」対策の内容・目標設定のバランスが欠けているように感じる。 上下水道の収支改善策については、全国で様々な取組が行われている。法的・技術的・コスト的な課題もあるとは思うが、宮崎市の規模であれば検討可能なものもあると思われる。値上げの議論の前に抜本的な歳入対策を具体的に打ち出すべきではないか。 現在行われている下水汚泥のリサイクルや消化ガスの利用については「環境保全」の項目には指標も位置づけられているものの、歳入対策としては位置づけられていない。「財政基盤の強化」の柱として、何らかの対策を積極的に位置づけ、具体的な研究内容や数値目標としてはっきり掲載するべきではないか。	上下水道事業は公営企業であり、独立採算、受益者負担が原則となります。 その収入は、ほとんどが料金や使用料によるものであり、料金水準は経費を料金で賄うという観点で算出されるため、経営の効率化を進める支出抑制策が主体となります。 下水道の支出抑制の取組みとしまして、大淀処理場では処理過程で発生する消化ガスによる発電により、場内での電力需要を賄うことで経費の節減を行っています。宮崎処理場では、この消化ガス発電設備が老朽化したことからPPP/PFIを活用した施設更新により事業コストの削減を行っています。 また、上下水道施設用地等への太陽光発電施設の設置や水道施設における小水力発電などの検討を行っています。しかし、財政基盤の強化の柱として示せる対策には至っていないことから、先進的な事例などを参考にしながら今後も引き続き検討します。 注1)PPP(Public Private Partnership) 官民が連携し、効率的かつ効果的に質の高い公共サービスを実現する手法。PFIや部分民営化、アウトソーシング等の手法を包含する概念で、官民協調による広義の事業方式。 注2)PFI(Private Finance Initiative) 公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法。
10	都市計画とも関連するが、人口減少の中で現在の給水エリアを維持していくのか、今後議論が必要となるのではないか。	現時点においては、水道法の給水義務などにより、給水区域を縮小することは困難な状況です。 しかし、今後人口減少が見込まれるなかで、給水エリアをどうしていくのかということは、上下水道事業だけに限らず、宮崎市のまちづくりの課題として検討していく必要があります。 なお、施設の更新や維持保全については、中長期的な水需要の見通しを踏まえ、将来の維持管理費用を含めた費用対効果に配慮して取り組みます。

3. 素案に対する意見ではないもの

	意見の概要	考え方
11	下水道使用料の算出の根拠が水道使用量というのが納得いかない。	水道水を使用している場合の下水道使用料は、水道の使用水量に応じて、水道料金とは別の料金表にて計算しています。 これは、以下のような理由によるもので、全国的にほとんどの自治体が本市と同様の計算方法を採用しています。 ①通常、使用している水道水のほとんどが下水道に排出されていること ②排出される汚水は、固形物を含んでいるため、水道メーターのようなもので測定することが技術的に難しいこと ③厳密に汚水量を測定するためのメーターを設置すると、その設置費用や検針などに係る費用が増加するため、基本使用料が現在よりも高くなってしまうこと
12	畜産農家における家畜のし尿処理は適正に行われているのか。	畜産排せつ物の処理に関する実際の農家の指導については、「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律」に基づき、宮崎県が所管しています。
13	色々な土地に住んだが、宮崎市の水道料金は高い。	水道料金は、各市町村で定められており、その水準は、水道水の水源や施設の規模、地理的条件などの要因に大きく左右されます。 一般的な3人世帯（口径13ミリ、1月20立方メートル使用）で比較すると、現在、本市は九州の県庁所在市8市中で最も安くなっており、改定後も4番目となります。 なお、本市では、2か月に1回、水道料金と下水道使用料を合わせて請求しています。